

「あなた自身」(Ⅱの設問 1~5)を含め、「授業の計画性」(Ⅲの設問 1~3)や「授業の内容」(Ⅲの設問 4~6)、「授業の仕方」(Ⅲの設問 7~9)、「成績評価や授業環境」(Ⅲの設問 10~12)についての計 17 設問となっている(各設問の内容については表 1 を参照のこと)。いずれの設問に対しても学生は 5 段階評価(5:「非常にそう思う」、4:「ややそう思う」、3:「どちらとも言えない」、2:「あまりそう思わない」、1:「全くそう思わない」)で回答し、項目(設問)ごとの平均点を評価としている。

2009 年度前期(256 科目)および後期(218 科目)の各分野の平均点は表 2 (図 2) の通りで、前期・後期で授業科目は変わっても評価結果はほぼ同じ傾向であった。そこで、学生の「あなた自身」について

表1 学生による授業表アンケート設問

分野	No.	設問内容(質問文)
あなた自身	1	この授業を履修するにあたって、予習・復習をしましたか。
	2	積極的に興味や関心をもって授業に参加しましたか。
	3	授業では私語を慎んでいましたか。
	4	授業に遅刻しないようにしていましたか。
	5	あなたはこの授業にどのくらい出席しましたか。⑤:100% ④:~80% ③:~60% ②:~40% ①:40%未満
授業の計画性	1	授業を履修するにあたって、「シラバス」は役に立ちましたか。
	2	「ねらい」をはっきり示し、系統的に進められた授業でしたか。
	3	教科書や参考書等教材の指定が適切で、十分に活用されていましたか。
授業の内容	4	授業は十分に準備され、よく整理されていたと思いますか。
	5	あなたは授業内容をよく理解できましたか。
	6	授業内容や教材のレベルは適切なものでしたか。
授業の仕方	7	教員の「話し方」は聞き取り易かったですか。
	8	資料配布や視聴覚機器使用など情報提供の方法は適切でしたか。
	9	授業の開始、終了は時間どおりに行われましたか。
成績評価や授業環境	10	成績評価の基準や、評価の仕方についての説明は明確でしたか。
	11	使用教室の授業環境(広さ・設備等)は適切でしたか。
	12	私語などが規制されていて、授業に集中できる環境でしたか。

表2 分野別授業評価結果

分野	前期	後期
あなた自身	3.9	3.9
授業の計画性	3.7	3.7
授業の内容	3.8	3.8
授業の仕方	4.1	4.0
成績評価や授業環境	4.0	4.0

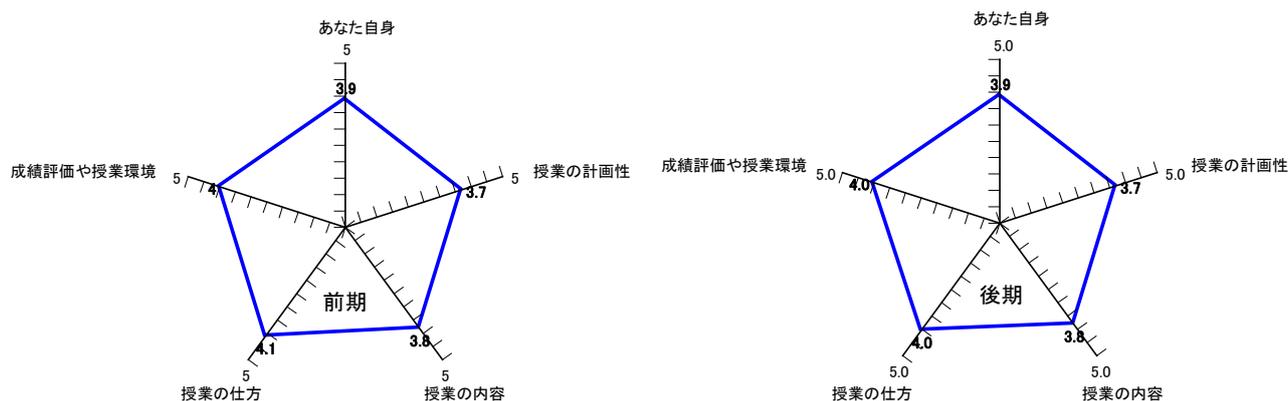


図2 分野別授業評価結果

詳しく見てみると、図 3 に示すように、設問 4 や設問 5 の平均点が前期・後期とも高くなっていることから、学生は授業に遅刻しないように出席しようとしていることが判る。しかしながら、学生の予習・復習や授業に対する興味・関心はかなり低くなっている点が問題である。一方、教員側では、図 4 に示すように、4 点を超えて特によい評価を得ているのは、設問 9 の「授業の開始、終了は時間どおりに行

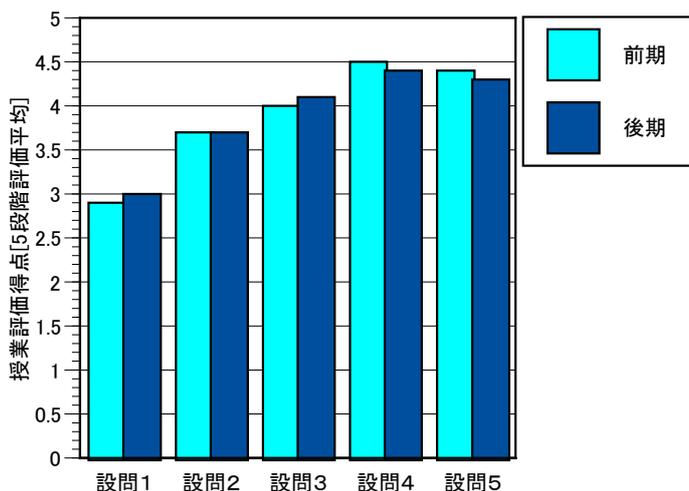


図3 学生の「あなた自身」に関する設問の平均点

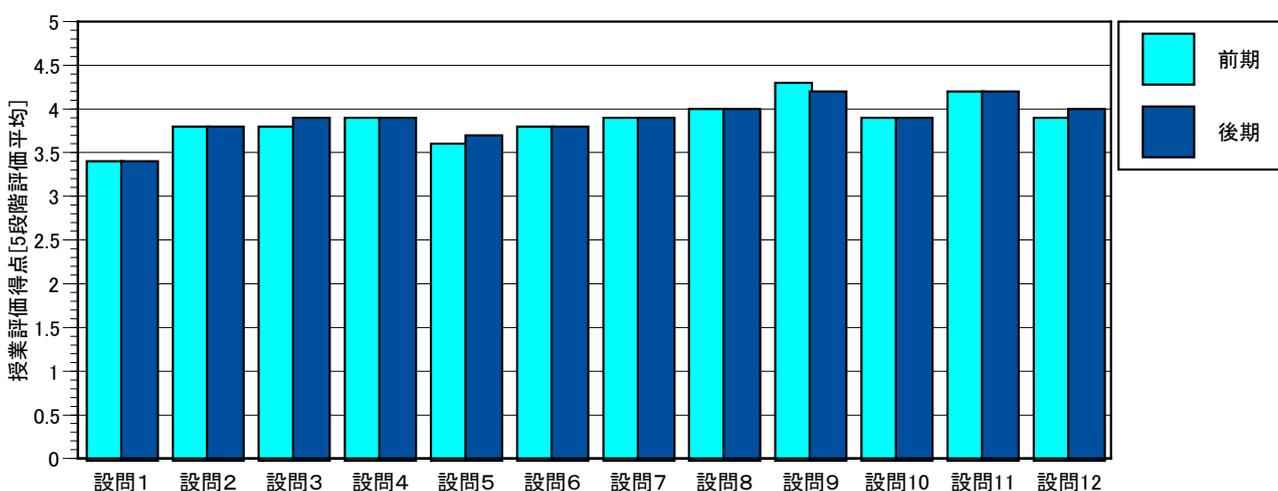


図4 「授業の計画性」、「授業の内容」、「授業の仕方」、「成績評価や授業環境」に関する設問の平均点

われましたか」と設問 11 の「使用教室の授業環境（広さ・設備等）は適切でしたか」の 2 点のみである。これらは、授業を提供する側（教員・大学）として当然のことであるため、もっと高く評価されるようにすぐにでも改善努力されるべき点であるともいえる。さらに教員のスキルが評価されるような設問でも 4 点を超えてはおらず、まだまだ授業改善の余地はあるものと推察される。勿論何点を超えればよい（例えば 4 点を超えればよい）ということはないので、目標は限りなく 5 点満点を目指して自己の努力によるスキルアップは必須であると考えられる。

次に視点を変えて、受講学生数別の分野別授業評価平均点（図 5、図 6）を見てみると、前期・後期とも、いずれの分野においても受講学生数の少ない授業形態のほうが、授業評価が高くなる傾向のあることが判る。本学では、図 7 に示すように、100 人を超える大人数の授業形態は少なく、むしろ 31~60 人程度の比較的少人数といえる授業形態が多いといえる。「学生による授業アンケート」（授業評価）から見る本学の現状における改善点（図 8 参照）、すなわち、①学生の予習・復習が十分に行われていない、②シラバスが有効に活用されていない、③私語などがあって授業に集中できないなどの点に関しては、本学の少人数授業という形態を活かし、今後特に改善を行わなければならないと考えられる。今後は「学生による授業アンケート」の結果を次期の授業に十分にフィードバックさせるために、各教員が前期・後期の授業評価結果を受けて「授業実践記録」を作成していく計画である。これによって教員側

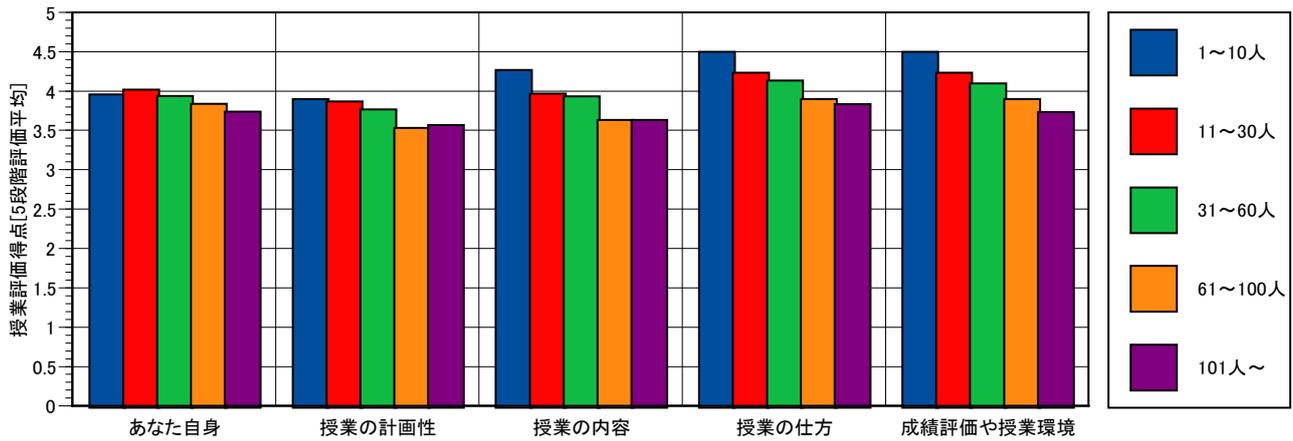


図5 受講学生数別での分野別授業評価平均点の比較(前期)

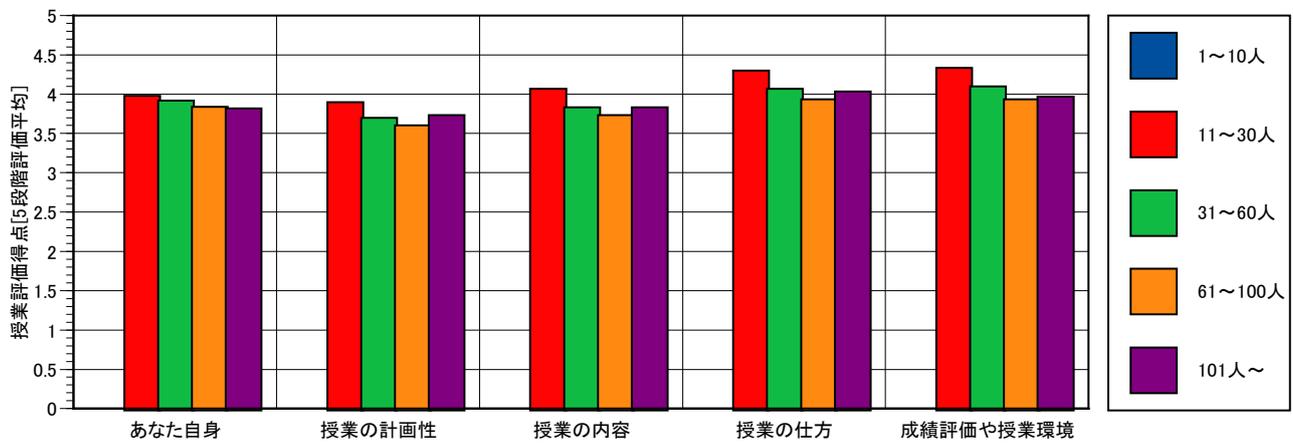


図6 受講学生数別での分野別授業評価平均点の比較(後期)

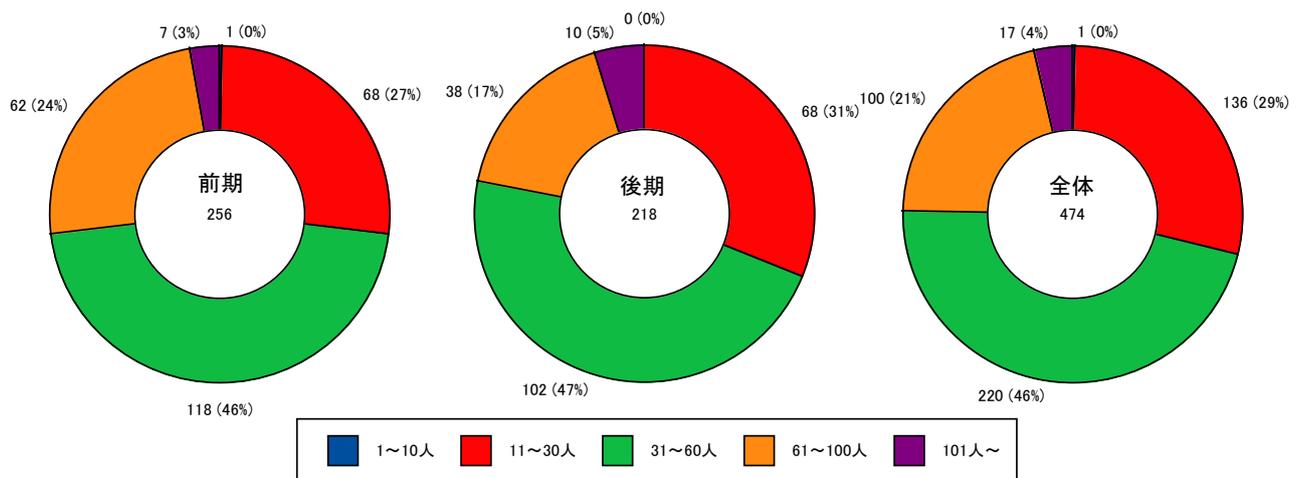


図7 受講学生数別授業形態の割合

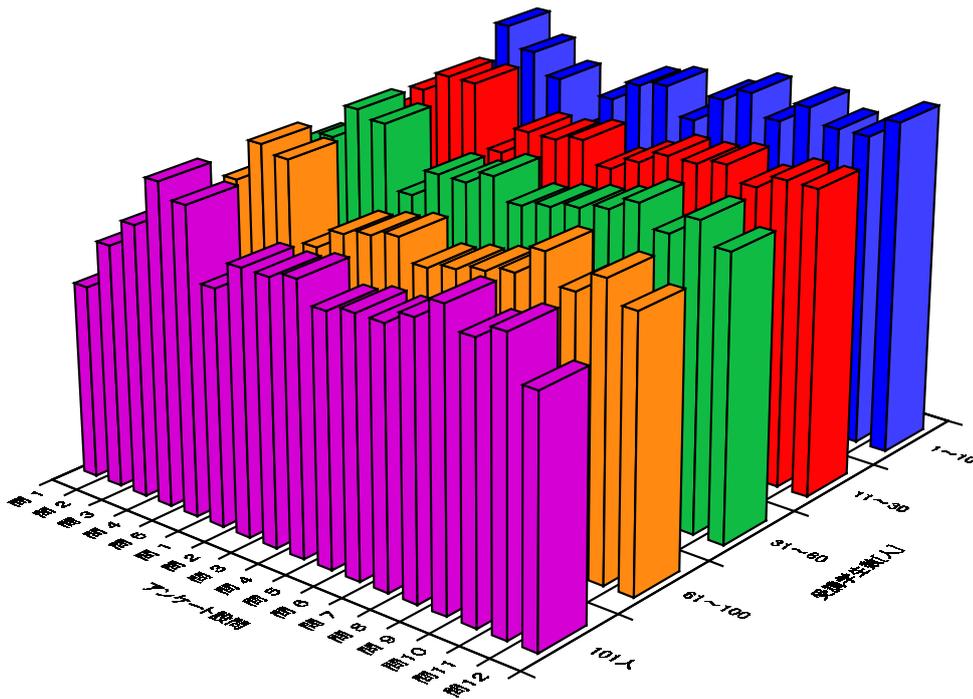


図8 受講学生数の違いによる各設問に対する授業評価平均点の分布

の取り組みが実際にはどうであったか、それが学生にはどのように評価されているのかを明らかにし、教員の授業スキルの向上に役立てたいと考えている。まずは教員一人ひとりの授業改善への取り組み姿勢が大切である。その和が結果として学生の勉学に対する意欲の向上に結びつくものと考えられる。FD研修とともに、前期・後期に行う「学生による授業アンケート」を活用し、今後も授業改善に取り組んでいきたい。